

編集後記：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行も落ち着き、3年半ぶり（2023年6月）に外国に出張しました。北極関連の会合（ヘルシンキ・フィンランド）、パラス（Pallas）観測所訪問とワークショップ（パラス・フィンランド）、大気化学モデル関連のワークショップ（キール・ドイツ）をはしごしましたが、ここでは、今回の出張で印象的だったパラスでの1日を紹介し、ここに記載する内容の写真と動画を天気X（旧 Twitter：@TENKI_metsoc）で紹介しますので、あわせてご覧いただければと思います。

パラスはフィンランド北部の地域であるラップランドにあり、北極圏に位置します。広大な自然につまれた国立公園内にあり、森林に覆われ、大小の湖が点在しており、夏でも、ところどころ雪が残っていました。

午前中にパラス観測所（WMO 全球大気監視（GAW）計画に参加する観測所）を訪問しました。パラス観測所には、大気中のブラックカーボン粒子を観測する日本の測定器が設置されています。滞在したホテルから途中まで車で行き、そこからは歩いて砂利道を登り、観測所がある丘の頂上を目指しました。途中から高い木がなくなり、低い草木と岩場が目立ちました。観測所からの見晴らしはよく、フィンランドには高い山がないため、地平線に向かって森林と湖が広がっている様子がよく見えました。帰りに車でホテルに戻る途

中、野生のトナカイを見ました。めずらしいものを見られたなと思いましたが、ホテルに戻ると（観光用の？）トナカイ達がいました。

午後のワークショップを終え、夕食後に、一緒にいた仲間に誘われ、フィンランド名物のサウナを体験しました。夜22時頃に、車で湖のほとりにある小屋に行きました。小屋の近くにあるサウナでは、熱した石に水をかけ、高温の蒸気を一気に発生させます。体中に汗をかくほど十分に体を温めた後に、すぐ近くの湖に入り体を冷やし、またサウナに戻る、という行動を繰り返しました。夏でも湖の水はとても冷たく、自分は数秒しか入れませんでした（湖で泳ぐと言っている仲間もいました）。森の中の湖で、自分達以外に誰も人がいないので、自然の湖に裸で勝手に入るのには驚かされました。白夜のため、真夜中でも太陽は沈まず、静かな北極圏の自然とフィンランドの文化を堪能しました。

今回の出張では、久しぶりに対面での会合に参加でき、昼食や夕食など会合以外の時間も外国の研究者と一緒に過ごせたため、交流を深めることができました。利便性が高いオンラインでの活動に加えて、対面での国内外の学会等への参加や交流をすることは重要だと再認識しました。今後も、気象学会や「天気」を皆様の研究交流の場として活用していただけると幸いです。

（大島 長）